

**第4回佐賀県西部広域環境組合ごみ処理  
広域化基本計画策定委員会会議録**



平成20年7月15日 14:00～16:30  
武雄市役所 環境課2階会議室

佐賀県西部広域環境組合

第4回佐賀県西部広域環境組合ごみ処理広域化基本計画策定委員会

日 時	平成20年7月15日(火) 14:00~16:30		
場 所	武雄市役所 環境課2階会議室		
委 員	区 分	氏 名	出 欠
	学識経験者	樋口 壯太郎	出
		松本 亨	欠
	伊万里市選出	前田 壽美代	出
	武雄市選出	中原 正敏	出
	鹿島市選出	武富 孝子	出
	嬉野市選出	八谷 茂樹	出
	有田町選出	山崎 知進	欠
	大町町選出	森 カヲル	出
	江北町選出	百武 儀春	出
	白石町選出	樋口 正憲	出
	太良町選出	荒木 正子	出
	杵藤クリーンセンター	棚町 信也	出
	伊万里市環境センター	織田 清弘	出
	佐賀県	川原 哲朗	出
	佐賀県環境審議会選出	林 真実	出
佐賀県環境審議会選出	福母 祐二	欠	

佐賀県西部広域環境組合	事 務 局 長	井関 勝志	
	事 業 係 長	加々良 俊文	
	事 業 係 主 査	古賀 正太	
(財)日本環境衛生センター 西日本支局	環境工学部部長	岩永 宏平	
日本技術開発(株)	資源循環事業部 西日本室室長	山口 隆三	
	資源循環事業部 西日本室	伊達 誠	

## 第4回佐賀県西部広域環境組合ごみ処理広域化基本計画策定委員会

平成20年7月15日(火)  
午後2時00分 開会

### 【1】開会

### 【2】協議

ごみ処理広域化基本計画について

### 【3】その他

---

### 午後2時開会

### 【1】開会

事務局長より開会の挨拶

7月2日に、候補地域抽出について伊万里市から組合へ報告があったこと、また、同日の構成市町長会において、伊万里市から提出された候補地域を組合の候補地域とすることと附帯条件について最大限尊重することが合意され、市町長会終了後に組合の全員協議会を開催し、市町長会の合意事項を了承いただいた旨の報告。適地調査の今後のスケジュールについて説明。

### 【2】協議

#### 【第1章総論・第2章地域の概要について】

(委員) 道路の状況の文章について、生活道路としての重要度が高い道路については記載を入れたほうがよい。

(事務局) 了解。

#### 【第3章ごみ処理の現況と課題について】

(委員) 平成15年から平成19年度にかけ、資源化率が下がってきている。ごみの減

量化やエコを訴える中、資源化率が下がっている原因をコメントで記載したほうがよい。

(事務局) 最近はペットボトルの軽量化がされている。そのことも含め、資源化率の低下についてのコメントを入れる。

**いただいた意見を踏まえ、数値の訂正もあるので、見直し、整合性についても精査し、再度提示する。**

#### 【第4章ごみ量の将来予測について】

(委員長) 人口予測もごみ量予測も減少傾向が最も少ない計算式を採用されているが、これについて交付金申請をした場合にこの部分が指摘されることはないのか。

(日 技) 交付金の申請にあたって、人口予測の方法については、説明が必要になるので、地域の実情や過去の実績の動きを踏まえ、根拠を示していく。

(日 環) 統計の妥当性が1つの視点となるが、人口問題研究所が全国の市町村の人口を推計していて、その推計値がかなり減っている推計である。市町村がトレンド法で推計する減少よりも大きい減少を示している。やはり、現実の動きを反映させたトレンド法がよいという説明をし、それによって妥当性をご理解いただければ交付金申請も問題ない。

(委 員) 文章の中で、人口については、減少傾向に歯止めがかかるものと予測しています、としているがこれでよいのか。

(事務局) 各市町の総合計画を参考にすると、いろいろな施策をして人口減少の歯止めを最大限努力していくということがうたってあるのでこういう表現にさせていただいた。

(委員長) 廃棄物処理の場合は、実績の数値をシビアに求められると思う。この地域だけでなく日本全国どこでも人口が減ってきている。これからつくろうとしている

施設はつくったときが最大で段々と処理量が減っていくことも考えられ、維持管理を含め、非常に難しい時代になってきている。人口減少の中でどのような施設をつくっていくか課題になると思うし、注目されていると思う。過去の実績を重視した予測をしておいたほうがよいのではないか。

(事務局) 過去の実績をふまえ再度提示する。

**人口・ごみ量の推計を行う計算式はトレンド法を採用するが、トレンド法の中のどの計算方法を採用するかは検討し、明確な根拠を示すとともに文章の表現も修正し、再度提示する。**

#### 【第5章第1節計画の基本理念と基本方針について】

(委員) 前回の意見を取り入れてもらい、わかりやすくなったと思う。

(委員) エネルギー回収施設という文言があるが、その内容はどのようなものか。

(事務局) 今度整備する施設は国の交付金のメニューでいえばエネルギー回収推進施設という名称であり、発電や熱回収を行うものが基本に検討していくことになる。

(委員) 環境教育及び環境学習の充実を図ります、とあるが、今後広域で推し進めるということか。

(事務局) 3R運動の推進や環境学習等広域で取り組みを行うメニューもあるが、直接住民と接する機会が多い構成市町が中心になる。

#### 【第5章第2節ごみ処理の目標値について】

(事務局) 第5章すべてを提示したうえでごみ減量化目標値の設定を行う。

#### 【第5章第3節排出抑制・資源化計画について】

(委員) リサイクルを行政が取り組むことの中で、再生品を積極的に使用しますという文言を入れていただきたい。一例として、廃油のリサイクルを行っているが、

なかなか行政に取り入れてもらえない現状があるので、再生品を積極的に使用するという姿勢を示していただきたい。

(委員長) 同じような問題は起こっており、リサイクル品の使用先がなく困っている例があり、行政が率先して使っていただくことで再生品を普及させていくきっかけになると思う。

(事務局) 了解。

(委員) 多量排出事業所に対して減量化計画の提出義務付けを検討します、となっているが、検討するのではなく提出義務化を求めているのではないか。

(事務局) 県内10市の協議の中で、多量排出事業所についての減量化計画の提出義務の条例化を進められている。西部広域についても、市のみならず町も含めて統一した歩調をもって対応したいということで協議を進めている。構成市町は、まだ条例の提出はされておらず、統一的な歩調が取れていない中、本計画で義務化するという表現はしていない。

#### 【全体を通して】

(委員長) ごみ質の現状についてのまとめがない。ごみ質というのは重要なファクターで、減量化をされていくことはいいと思うが、ごみ質をまとめておかないと、せっかく焼却炉をつくったのに発熱量が少なくて燃料を入れなくてはいけないとそういうことが起こらないようにしていただきたい。過度な減量化を行うと逆に経費があがってしまうということもあるので、その部分で目配りをぜひやっていただきたい。

(事務局) 次回委員会で提示する。

(委員) 地球温暖化対策は計画の中でこういった取り入れ方をするのか。地球温暖化を助長するような施設にならないようにしてもらいたい。

(委員長) 地球温暖化対策として、処理システムの中で、バイオマスを利用していくよう

な方法も実際にはあるので、できるかできないかは別として目配りだけはしておいていただきたい。

(事務局) 地球温暖化対策についても目配りを行う。

**いただいた意見を踏まえ、構成しなおしたものを次回提示する。**

**次回は、全章を提示し、協議いただくことになる。今回の協議事項と重複する部分もあるが、ごみの減量化目標数値の設定等重要な部分を協議いただくことになる。**

### 【3】その他

7月25日(金)に組合議会議員の先進地視察を予定しており、その際、ごみ処理広域化基本計画の進捗状況について報告を行う旨了承いただきたい。対応は事務局で行う。